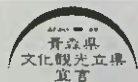


十和田市立 新渡戸記念館だより



ふるさと発見セミナー

開拓の申し子・稲造

—その魂と言葉の世界—

十和田市民文化センターにて7月開催!!

青森県は7月19日三内丸山遺跡を会場に文化観光立県宣言を行い、各地で記念イベントが開催されます。十和田市においても市の火・「開拓の火」の採火や、市民文化センターでの「ふるさと発見セミナー／開拓の申し子・稲造—その魂と言葉の世界」開催などを予定しています。(日程詳細は以下)



新渡戸稲造

青森県
文化観光立県宣言
記念イベント

7月17日

会場／太素塚・桜の広場 他
(荒天時：十和田市民文化センター)

文化観光立県宣言カウントダウンイベント 市の火「開拓の火」の採火と 運行パレード

15：00～「開拓の火」採火 (場所：太素塚)
18：30～ 馬と馬車によるパレード
＜運行ルート：太素塚一産馬通り一駒街道(官庁街通り)一桜の広場＞
19：00～ 上十三広域「火のイベント」(場所：桜の広場)
出演：水神雷太鼓・角田弘信・すみ子モダンバレエ・白川敦子・十和田市子ども劇団・劇団越後屋一座・混成合唱団・上十三広域の各市町村長

7月25日
～30日

会場／十和田市民文化センター展示室
時間／10：00～18：00
(27日休館・30日は15:00まで)

記念展 『新渡戸稲造カルタ“CARTA” —歌でつづる稲造の世界—』

著作の中、あるいは講演の中で稲造は度々古歌に自らの想いを託し引用しました。愛唱した和歌や、あるいは自作の和歌などをイラスト入りカルタパネルで紹介しながら、思想やその人となりを浮き彫りにします。直筆の書など関係資料40点余りを展示する予定です。

7月26日

会場／十和田市民文化センター 大ホール
時間／13：00～16：00

ふるさと発見セミナー

〈第一部：講演会〉

「開拓の申し子・稲造
—その魂と言葉の世界—」

講師：松川 成夫 先生
(東京女子大学名誉教授・聖学院大学教授／稲造研究者)



著書：『キリスト教学校教育の理念と課題』 など
(共編著)キリスト教学校教育同盟 (1991)
論文：「新渡戸稲造の教育思想」 など
(東京女子大学比較文化研究所「紀要」第52巻, 1991)

〈第二部 音楽劇〉

『INAZO —太平洋を渡った男』

出演：九月とアウラー



(次頁へつづく)

盛岡市の演劇集団「九月とアウラー」(代表・長根山明美氏)が稲造博士の国際親善に捧げた後半生を演じます。この音楽劇は昨年、岩手県矢巾町・田園ホール、盛岡市・県公会堂、香川県高松市(国民文化祭参加)で上演され新聞紙上でも高い評価を受けています。

★「アウラー」(AURA)とはギリシャ語で「そよ風、空気、空、天」の意味です。



7月25日

場所／十和田市民文化センター 大ホール
時間／13：00～16：40

十和田青年会議所主催

「第8回新渡戸稲造杯弁論大会」

新渡戸稲造杯弁論大会では、市内小、中学校から各1名出場し稲造博士の偉業や三本木原開拓から学んだこと自分達の住む町の未来などについて発表を行います。今年度は「ふるさと発見セミナー」に時期を合わせ7月25日に開催し、翌26日のセミナー開会式において小学校、中学校部門から各1名が記念として発表します。

ご冥福をお祈り申し上げます

太素顕彰会会長
十和田市長

水野好路様
ご逝去



十和田市長水野好路様は十和田市立中央病院に入院されていましたが、懸命の看護にもかかわらず6月9日逝去されました。生前、水野市長は、当館の運営母体である太素顕彰会の会長としてご尽力下さいました。水野市長の通夜は6月16日さくら斎場にて多数の参列のもと、しめやかに行われ、翌6月17日に同斎場で葬儀並びに告別式が執り行われました。7月14日、稲生川土地改良区との合同葬が午前11時から十和田市民文化センターで行われます。水野市長の早すぎる死を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

作業レポート

太素塚の森を蘇らせるために —自然の力による再生—

太素塚は慶応2年(1866)新渡戸傳が自らの墓所としてこの場所を設定して以来植樹が進められ、樹木の成長とともに現在は人々の憩いの森となっています。しかし、近年枯れ枝が増えるなど衰えが目立つようになり、平成8年からは樹木医の診断にもとづく治療とともに、森のもつ「自然の力」を生かした太素塚全体の活性化を図っています。

♣弱まる太素塚の木々

樹木医の診断によると、太素塚境内の木々は、長年のうちに踏み固められたため根元の土が固くなり、根に酸素や水分が十分行き渡らない状態になっているということでした。そのため、新芽が枯れるなど特に衰えが目立っていた記念館前のもみじ4本(樹齢約150年)は白紋羽病(根にこぶが出来る病気)を起し根こぶ線虫(根の中に入る虫)に寄



太素塚

生されるなど、深刻な状態になっているという事でした。そこで市は、迅速な対応として根元の土の入れ替えによる酸素供給や、樹幹注射による活性剤注入など応急処置を行い、さらに根元を土手で囲むなどの作業により、根に十分水分や養分が浸透するようにしました。治療のかいあって葉も茂り、今年の秋は2年ぶりで美しい紅葉を見ることができそうです。

♣森がもつ自然の力を生かして

自然の森では木々の下に生えている草の根によって土が耕され根元が柔らかく保たれています。それに対して、太素塚の木々の根元は、通る人の足によって踏み固められているため草があまり生えません。そこで、現在木々の根元を掘り起こし、自然の森と同じように様々な野草を植えることで土壌の改良を行っています。



回復したもみじ

大切な歴史的遺産であると同時に人々の憩いの場でもある太素の森を後世に残すために、今後も根気強く見守っていかねばと考えています。(主任 江波修一 記)

たいそ
太素祭開催
3日間で4000人余の入館者

5月3～5日に太素祭が開催され、太素塚境内で様々な催しが行われました。記念館では無料公開すると同時に「新収蔵コーナー」を設け、今年収集した稲造関係資料39点を展示しました。新聞各紙で紹介されていたこともあり、3日間で4000人以上の入観者がありました。

5年に一度の
太素行列!!



↑故水野市長扮する南部公



↑市職員と青年会議所の皆さんによる若侍



三本木高校生徒による→
供奴(ともやっこ)

今年には稲生川上水140年にあたり、5年に一度の太素行列が5月3日に行われました。行列の運行ルートは官庁街通りから四号線を通り太素塚までとなっていましたが、あいにくの雨で太素塚手前での解散となりました。太素行列は、万延元年(1860)南部利剛公が前の年上水に成

功した新しい水路と三本木原開拓地域の視察に訪れた時の様子を再現したもので、南部公には故・水野市長が扮し、江戸時代の行列を再現しました。現在、稲生町、稲生川、稲生橋の名前として親しまれている「稲生」という名前はこの視察の折り正式に命名されたものです。

記念館では
新収蔵資料コーナーを設置



太素祭期間中、記念館二階稲造コーナーに「新収蔵資料コーナー」を設け、昨年度から今年度にかけて、収集した稲造関連資料39点を一挙に展示しました。

稲生川上水140年記念事業として
「十和田市・三本木原開拓と新渡戸三代の
歴史ガイドブック」を
発刊、発売中!!

三本木原開拓の歴史から稲造博士の生涯、記念館の歴史までがこの一冊でわかります。上水記念日5月4日付けで2000部発刊。頒布価格500円



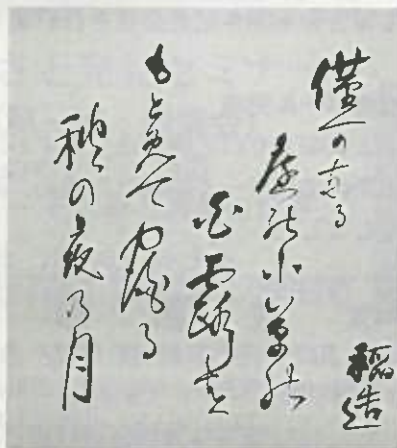
新収蔵資料から

新渡戸稲造直筆の書

— 執事・大村吉氏旧蔵資料 —

僅かなる庭の小草の玉露を
もとめて宿る秋の夜の月

これは西行の『山家集』にある和歌で稲造博士が愛唱した歌の一つです。稲造はこの歌を『編集余録』や『一日一言』などの著書にも引用しています。『一日一言』の中では9月18日の項目にこの歌を引用し、どんな小さな露にも平等にやさしい光を投げかける秋の月にたとえて、小さきものへの慈愛の心を忘れてはいけないことを稲造は語っています。



縦…二七〇／横…二四〇(5)

臨時休館のお知らせ

記念館内の改装工事のため
6月22日から7月6日まで
臨時休館いたします。
(7月7日から通常開館)

関連情報

●太素顕彰会事務局長の異動がありました

平成10年4月太素顕彰会事務局スタッフに人事異動がありました。前事務局長の赤石光治商工観光課長は、教育委員会に栄転されました。新事務局長には川村俊一商工観光課長が就任されました。

●十和田職業能力開発校生実習として太素塚境内柵等の塗装をする



職能開校生の塗装実習として太素塚の傳翁銅像周囲の柵などの塗装を行いました。柵は環境庁指定の目立たない茶色を使用し、周りの自然に溶け込むように配慮しています。

●1月4日～6月31日までの来館小学校

<十和田市>三本木小学校・北園小学校<八戸市>明治小学校<東北町>甲地小学校<横浜町>南部小学校<福地村>福田小学校

●蝦名電工より館内照明器具を寄贈頂く

蝦名電工社長蝦名与三郎さんよりスポットなどの館内照明器具を寄贈頂き、それにより館内が明るく見やすくなりました。蝦名さんは幼い頃から太素塚を遊び場として成長しており、思い出の太素塚に何か貢献したいというご厚志から寄贈を思い立ったと話されていました。

●太素塚演舞場取り壊しとプレハブ倉庫建設工事開始

太素塚演舞場の取り壊し工事が始まりました。これまで太素祭期間に行われる催しは、この演舞場で行われて

きましたが、老朽化のため取り壊し、今後太素祭期間の催しについては仮設舞台を設営し、そこで行われる予定です。演舞場は太素祭期間以外は倉庫としてつかわれていたため、取り壊しと同時に記念館裏駐車場わきにプレハブ倉庫が建設されます。また、太素塚境内の公衆トイレも、汲み取り式で不衛生であることなどから同時に取り壊します。

●国際交流の場としての新渡戸記念館

6月14日青森市在住の元県職員坂本美幸さんが案内し



て弘前大学のルーマニア人留学生クリスチナさんとクリスさんが来館しました。特にクリスさんは津軽弁が堪能で面白い学生でした。

活動報告

●稲生川上水140年記念事業として開拓と新渡戸三代の歴史ガイドブック発刊

稲生川上水・三本木原開拓140年記念事業として「十和田市・三本木原開拓と新渡戸三代の歴史ガイドブック」を5月4日付けで発刊しました。(関連3面)

●太素祭期間に新収蔵資料コーナー設置

今年の太素祭期間には「新渡戸稲造関連新収蔵資料コーナー」を設け、新資料39点を一挙に展示しました。(詳細3面)

●太素顕彰会評議員会開催

3月25日11時からしもやま旅館において、平成9年度第二回太素顕彰会評議員会を開催し、事業計画並びに予算が承認されました。評議員会の前に稲造関連新収蔵資料39点について報告会を開き記者会見を行いました。

●太素祭時の職用ポール完成

太素祭時には太素塚入り口に幟を立てますが、これまで立てていた木製の架設ポールが壊れたため、鉄製の常設ポールを設置しました。

<編集後記>

ガイドブックを発行したところ、好評を頂き購入される方も多く感謝しています。さらに研究を重ね改訂を続け、よりよい資料として集大成できるよう努めたいと存じますのでご指導をお願いします。

発行 太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034 0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176 23 4430
印刷 有限会社 岩間印刷所